

開校準備 急ピッチ

キャンパス市民に開放

秋田職業能力 開発短期大学校

来年四月に開校する「秋田職業能力開発短期大学校」。来月十五日には、推薦入試の願書受け付けが始まります。校舎の建設工事も急ピッチ。短大開設準備室では、教育内容の充実とともに、市民に開かれた短大づくりを目指して開校準備を進めています。

市道沿い450メートル 八重桜通りを造成

本館の建設など第一期工事の進捗率は六〇%を超え、十一月には完成の予定です。また、市ではアクセス網整備のため、短大北側を通る市道象ヶ鼻線の拡幅工事に着手しており、一帯は学園ゾーンという、新たな姿を見せてきています。

短大では、象ヶ鼻線沿いに八重桜を植え、約四百五十メートルの「八重桜通り」を造成しました。本館南側には樹木を生かした緑のゾーンをつくり、散策、森林浴の場として市民にも開放する予定です。キャンパスにはこのほか、テニスコートやグラウンド、二百四十四台分の駐車場を設け、

市民が気軽に立ち寄れる短大として整備を進めていくことになっています。

また、学科にも特徴があります。五学科のうち「住居環境科」

と「産業デザイン科」は東北では初めての設置。ハイテク時代に対応した高い技術と知識を、「マンツーマン」に近い方式で指導していきます。

地元産業界と協力 研究開発にも意欲

一方、地元産業界では、即戦力の人材養成とともに、研究開発分野での協力に大きな期待を

大館商工会議所副会頭

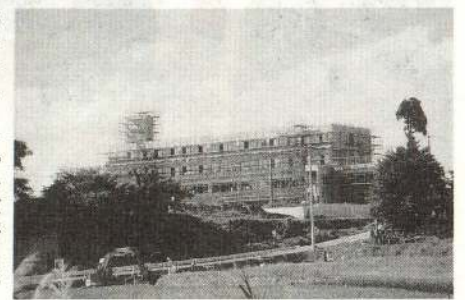


戸田範一さん



藤岡 宏さん

秋田職能短大開設準備室所長



緑いっぱい「学園ゾーン」

寄せています。短大では、さまざまな資格試験に対応したセミナーや産学共同研究などを積極的にやっていく方針です。市民の期待を担う大館初の短大。推薦入試は十一月十七日、一般入試は来年二月十七日に行われます。

活性化の起爆剤に

高度なレベルの技術者を養成する学校を大館に、と市や商工会議所が一体となつて取り組んできた運動が実現。大変うれしく思っています。職能短大には、市外の若い人も

入学します。これによって情報交流拠点という側面も併せ持つことになり、産業界だけでなく、あらゆる面で市活性化の起爆剤になると期待しています。

市民とともに歩む

学校に対する関心が高いようで、県内外から問い合わせが相次いでいます。カリキュラムはもちろん、全国初の女性用の学生寮をつくるなど教育環境は十分と自負してい

ます。さらに、市民の皆さんにも施設を見学したり、利用したりしてもらえようと考えています。市民とともに歩む、開かれたキャンパスにしたいですね。

長 市リポート



No.28

福祉のまちづくり

台風が来たり、暑さがぶり返したりと、気候の変わりやすい時期です。体調を崩さないよう、特にお年寄りのみなさんには健康でいてほしいと願っています。市では「ふる里21健康長寿のまちづくり事業」の調査に入りました。この事業は、県が進めている老人福祉総合エリアの大館市への建設を目指すとともに、健康で長生きできるまち大館を実現していくというものです。

そのために、福祉に携わる人材の育成やお年寄り向け住宅の建設、デイサービスやショートステイのためのセンター整備など、さまざまな事業を幅広く進めていくこととなります。また、お年寄りに多い脳卒中に、素早く対応できる高次医療機関も必要です。

高齢化が急速に進んでいます。健康こそ一番の宝です。元気で長生きできるまち大館をつくるため頑張っていきます。

小畑 元